

国際ロータリー第2800地区

鶴岡ロータリークラブ

例会日：毎週火曜日 午後12:30～1:30

例会場：鶴岡市錦町 東京第一ホテル鶴岡

事務局：鶴岡市馬場町11-63(産業会館3F) TEL 0235-28-3375

例会会報

第2360回

平成19年4月24日(火) 晴れ(本年度 第39回)

会長報告

丸山隆志

先週・今週の行事について

- 4/17 (火)：鶴岡市民憲章推進協議会
- 4/25 (水)：出羽庄内国際村「第13回ワールドバザール」実行委員会
- 4/26 (木)：鶴岡4クラブ事務局会議

* * *

今年は統一選挙の年ですが、日曜日にも参院補選、市町村長選、市町村議選等がありました。注目された長崎市長選(選挙期間中に候補者殺害)・夕張市長選(財政再建)・高知県東洋町長選(核のごみ処分場問題)が、マスコミで大きく取り上げられました。結果は、有権者の判断に任せると致します。

中でも気になったのは、長崎市長選で無効票が15,000票と常識では考えられない現実になりました。これは亡くなった候補者に、期日前投票で投票した人が多数だったとのこと。今の公職選挙法では、如何にもならない事ですが今後の選挙の方法に一考を投げかけた選挙だったと思います。

「チームワーク力」(山形新聞掲載から抜粋)

日本人と中国人を比較する言葉に「1対1なら中国人が勝ち、10対10なら日本人が勝つ」があります。すなわち日本人はチームワークに優れていると考えられていましたが、最近は10対10でも日本人が負けるかもしれない状況になっています。

昨年ご逝去された、山形大学大学院理工学研究科ものづくり技術経営学専攻のディレクターでデンソー相談役の高橋朗さんが講義の中で、「チームワーク力を衰えさせる4つの現代企業の悪い仕組み」を指摘しました。それらはEメール、成果主義、フレックスタイム、そして派遣社員依存で、理由は次の通りです。

「Eメール」でやり取りをすると、目線を合わせた会話、言葉の裏に隠された相手の気持ち・意識が理解できず意思の疎通が図れなくなる。「成果主義」

では、自分の利益ばかりを考えて利己的になり、他人にノウハウを教えなくなり、グループの成果が出にくくなる。「フレックスタイム」では、グループ内でミーティングをする機会が少なくなる。これらが相乗的に災いして、一人で神経衰弱になっている社員が多く見られるようになってきている。全員で一つの目標に向かって意識がなくなってきている。加えて「派遣社員依存」は、正規社員が自社の強みである仕事をよその会社の人に任せてしまう為、自社の能力が高まらなくなってしまふ。

チームワークで大切なものは、全員による問題意識の共有化であり、職場でどんな問題があってもどんなことに挑戦したいのかを各自理解することが重要です。仲間意識の醸成と改善意識の高揚により問題意識を共有することが会社経営の基本であります。

「やまがた緑環境税」への期待と心配

会員スピーチ

塚原初男

1. はじめに

山形県では2007年4月、新目的税「やまがた緑環境税」の制度化元年となる。手入れ不足の不健全な過密林に手を入れて、県土の山々を健全な緑に復活させるため、税金額は県民1人平均約1,000円。19年度総額は約5億4千4百万円。使い道は、72%の約3億8千8百万円を荒廃が進んでいる森林の整備に、20%の約1億1千百万円を県民参加による森づくりに、8%の約4千5百万円を効果検証や意見反映やPR活動などのその他へととなっている。今回は、今日の森林・林業の趨勢を展望しながら、新税制度化への期待と心配について私見を述べたい。

2. 新税制度への期待

(1) 荒廃が進んでいる森林の整備

今まで森林を支えてきたのは林業である。その林業の不振や過疎化の進行によって、管理が行き届きとなり、長期に利用されなくなった里山



の森林など、荒廃が進んでいる森林は、県内で約132,000haもあるとされている。その8.8%に当たる11,600haの森林を、10年間がかりで公益的機能の高い健全林に整備しよう、というのだ。

混み過ぎた森林では、もやし状のひ弱な木ばかりとなり、雪や風によって簡単に折れたり倒れたりしやすい。地表に光が届かず、下層植生が枯れ、下木や下草の無い状態になり易い。そうなると、降雨や融雪水により表土が流れだし、洪水や土砂災害が多発し、水質が悪化し、二酸化炭素の吸収能力も低下し、県民生活に悪影響を及ぼす恐れがある。

(2) 県民参加による森づくり

新税事業のもう一つは、県民一人ひとりに森林のはたらきや価値を理解していただくため、地域による森づくりや自然環境の保全活動などを支援しよう、という事業である。これには、例えばNPOやボランティア団体による森づくり活動支援、市町村が実施する地域の独自性を生かした森づくり活動支援、河川周辺での森林環境整備支援、野生生物保全モデル地区での森林環境整備支援、子ども達への自然環境学習や指導者育成支援、及び教材開発支援などが挙げられている。健全な森とそのような森づくりの大切さを知る人が地域に充満することを願いながら、森づくりは人づくりから始めようという意味からも、大切な取り組みだと思う。

(3) 効果検証・意見反映・PR活動など

これは、県民の意見を反映させ、取り組みの効果検証や見直しを実施しようという活動事業である。例えば、有識者や一般公募により構成される「やまがた緑県民会議」の設置、森づくりへの理解を深めるためのイベントの開催やPR活動、県民参加の森づくり活動を総合的にサポートする体制の構築、その他の税徴収にかかる経費などが含まれる。効果検証に長い年月を要する森林独自の反応時間からも、無駄にならないよう留意したいものだ。

3. やまがた緑環境税の用途への心配

健全な森林のはたらきに対する期待感の地球的並びに地域的高揚という時代の潮流は、過大視することがなければ、大いに結構な事と受け止められる。その意味で、今回のやまがた緑環境税の用途案については、概ね賛成である。ただし、一つだけ心配な点がある。それは、疑っているわけではないが、今回の用途計画だが、地域の木材需給因果関係の逆転現象について、議論が無いままでの計画だとすると、伐り捨て残材の溢れる森林が目につくようにならないか、という心配である。

伐り捨て残材の溢れる森林は、手入れ前の過密な

森林と同じ様に下層植生の発達が悪く、林地の崩壊し易い森林となる心配が生じる。

4. 伐り捨て残材の溢れる森林を回避するために

伐り捨て残材の溢れる森林を回避するためには、国レベルでの米材製品輸入自由化の見直し、県レベルでの新しい木材・木質バイオマス運送システムの構築、地域や個人レベルでの木材・木質バイオマス資源需要量の拡大の3点が必要になる。

(1) 米材製品輸入自由化の見直し

米材製品の輸入自由化は国策である。国策である以上、その見直しができるのは国会議員である。米国との国際的な合意形成は、やはり日本政府の代表者である首相の仕事であろう。

(2) 木材・木質バイオマス運送システムの構築

補助金の対象になるような、しっかりした木材・木質バイオマス運送システムを地域に定着させてはどうかと考える。県会や市町村議会で、課題として取り組んでいただきたい。

(3) 木材・木質バイオマス資源の地域需要の拡大

自分達の生活の中に、環境にやさしい木材・木質バイオマス資源の利用を積極的に取り入れることは、めぐり巡って健全な森林をつくることになると確信している。

委員会報告

出席委員会

委員長 迎田 健

本日の出席		前々回の出席	
会 員 数	47 人	出 席 率	76.74%
出 席 数	30 人	修正出席数	37 人
出 席 率	69.77%	確定出席率	86.05%

●メイクアップされた方

藤川 享胤君 樋渡美智子君 加藤 賢君
塚原 初男君



阿部純次君 当クラブが寄贈した鶴岡市役所前の案内板をリニューアルしました。「第6回全国藩校サミット in 鶴岡」に間に合い、鶴岡市にも大変感謝され木村屋さんのお菓子をいただきました。ありがとうございますスマイルです。

塚原初男君 つたないスピーチ、ご清聴いただきありがとうございます。

佐藤孝子君 ○越智さん地区協議会代理出席ありがとうございました。○東江戸川 RC から写真をたくさん頂きました。○塚原先生スピーチありがとうございました。